

# 模擬試験 ～問題～

制限時間：2時間

## 第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現	金	当座預金	受取手形	売掛金	未収金
仮払金	備品	有価証券	支払手形	買掛金	
未払金	仮受金	所得税預り金	資本金	備品減価償却累計額	
売上	有価証券売却益	有価証券利息	固定資産売却益	仕入	
減価償却費	有価証券売却損	租税公課	雑費	固定資産売却損	

1. 営業用店舗にかかる固定資産税¥30,000 および店主個人にかかる所得税¥50,000 を、現金で納付した。
2. 出張中の従業員から当座預金口座へ¥45,000 の振込みがあったが、詳細は不明である。
3. 保有する福岡商事株式会社の株式 50 株（取得価格@ ¥600）のうち、20 株を@ ¥650 で売却し、代金は翌月末に受け取ることにした。
4. 当期の期首（平成 27 年 4 月 1 日）に、備品（取得日：平成 25 年 4 月 1 日、取得原価：¥600,000、残存価額：ゼロ、耐用年数：5 年、減価償却方法：定額法、記帳方法：間接法）を ¥300,000 で売却し、代金は小切手で受け取った。
5. 仕入先山梨商店から商品 ¥250,000 を仕入れ、代金のうち ¥100,000 については手許にある得意先青森商店振出しの約束手形を裏書譲渡し、残額は小切手を振り出して支払った。

## 第2問 (10点)

山梨商店が行った取引は次のとおりである。これらにもとづいて、それぞれの取引が、解答用紙に示したどの補助簿に記入されるか、解答欄に○印を付しなさい。

1. 宮崎商店より商品 ¥50,000 を仕入れ、代金のうち ¥20,000 は小切手を振り出し、残額は約束手形を振り出して支払った。
2. 埼玉商店に商品 ¥80,000 を売り渡し、代金のうち ¥50,000 は栃木商店振出し、埼玉商店受取りの約束手形を裏書譲渡され、残額は掛けとした。
3. 福島商店振出しの約束手形 ¥100,000 が満期を迎え、山梨商店の当座預金口座に入金された旨の連絡が取引銀行より届いた。
4. 宮崎商店に対する買掛金 ¥30,000 を現金で支払った。
5. 埼玉商店から掛代金の一部 ¥50,000 と注文を受けた商品の手付金 ¥30,000 が送金小切手で送られてきた。

### 第3問 (30点)

次の資料 (A) および (B) にもとづいて、解答用紙の平成 25 年 5 月 31 日の残高試算表を作成しなさい。

(A) 平成 27 年 4 月 30 日の残高試算表 (単位: 円)

#### 残 高 試 算 表

平成 27 年 4 月 30 日

借 方	勘 定 科 目	貸 方
83,000	現 金	
334,000	当 座 預 金	
52,000	受 取 手 形	
168,000	売 掛 金	
55,000	繰 越 商 品	
700,000	備 品	
	支 払 手 形	51,000
	買 掛 金	100,000
	借 入 金	150,000
	貸 倒 引 当 金	6,000
	備品減価償却累計額	180,000
	資 本 金	800,000
	売 上	932,000
589,000	仕 入	
88,000	支 払 家 賃	
150,000	給 料	
2,219,000		2,219,000

(B) 平成 27 年 5 月中の取引

#### 1. 商品仕入高

- (1) 小切手の振出しによる仕入高 ¥35,000
- (2) 掛けによる仕入高 ¥66,000
- (3) 約束手形の振出しによる仕入高 ¥24,000
- (4) 仕入値引高 (買掛金と相殺) ¥1,000

#### 2. 商品売上高

- (1) 現金による売上高 ¥77,000
- (2) 掛けによる売上高 ¥152,000
- (3) 当店を受取人とする手形の受取りによる売上高 ¥35,000
- (4) 売上戻り高 (売掛金と相殺) ¥1,500

#### 3. 掛代金の決済と貸倒れ

- (1) 現金による売掛金の回収額 ¥113,000
- (2) 前期に発生した売掛金の貸倒れ ¥1,000
- (3) 買掛金支払いのための受取手形裏書譲渡額 ¥20,000

4. 手形の決済

- (1) 満期日の到来による受取手形の当座預金口座への振込額 ¥33,000
- (2) 満期日の到来による支払手形の当座預金口座からの支払額 ¥15,000

5. その他の取引

- (1) 備品の購入額（代金の支払いは翌月末） ¥200,000
- (2) 当座預金口座からの給料の支払額 ¥50,000
- (3) 当座預金口座からの家賃の支払額 ¥22,000

**第4問（10点）**

次の取引を、答案用紙の入金伝票または出金伝票のいずれかと振替伝票に記入しなさい。なお、入金伝票、出金伝票には実際の現金収支額のみを記入するものとする。

- 1. 建物¥3,000,000（減価償却累計額¥2,160,000、間接法で記帳）を期首に売却し、現金¥500,000を受け取った。
- 2. 商品¥500,000を仕入れ、代金は現金¥200,000と前払金¥100,000で充当し、残額は掛けとした。

## 第5問 (30点)

千葉商店の平成 27 年度末における、次の[決算日に判明した事項]および[決算整理事項]にもとづいて、解答用紙の精算表を完成させなさい。同商店の会計期間は1月1日から12月31日までである。

### [決算日に判明した事項]

- (1) 現金過不足について、その原因を調査していたが、広告宣伝費¥3,000の記入漏れが判明した。残額については、依然として原因不明である。
- (2) 仮払金¥30,000は、従業員の出張に伴う旅費交通費の概算額を支払ったものである。従業員が帰店したため精算したところ、現金¥5,000が戻された。
- (3) 仮受金¥50,000は、上記の出張していた従業員から当座預金口座へ振り込まれたものであったが、得意先東京商店からの売掛金の回収分であることが判明した。

### [決算整理事項]

- (1) 商品の期末棚卸高は¥63,000である。なお、売上原価は「仕入」の行で計算すること。
- (2) 受取手形および売掛金の期末残高に対し3%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
- (3) 建物および備品について、定額法による減価償却を行う。なお、いずれも残存価額は取得原価の10%であり、耐用年数は建物が30年、備品が6年である。
- (4) 現金過不足について、適切な処理を行う。
- (5) 消耗品の未使用高は¥4,000である。
- (6) 支払保険料は、本年6月1日に保険に新たに加入し、向こう1年分を支払ったものである。
- (7) 借入金のうち、¥300,000は本年9月1日に借入期間1年、利率年5%の条件で借り入れたものであり、利息は返済期日に元金とともに一括して支払うことになっている。

# 模擬試験 ～解答・解説～

## 第1問 (20点) 仕訳問題

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	租税公課	30,000	現金	80,000
	資本金	50,000		
2	当座預金	45,000	仮受金	45,000
3	未収金	※1 13,000	有価証券	※2 12,000
			有価証券売却益	1,000
4	現金	300,000	備品	600,000
	備品減価償却累計額	※3 240,000		
	固定資産売却損	60,000		
5	仕入	250,000	受取手形	100,000
			当座預金	150,000

仕訳1つにつき4点。合計20点。

### 解説

#### 1. 租税公課、資本金

営業用店舗にかかる固定資産税を支払ったときは、『租税公課』（費用）で処理し、借方に記入します。また、店主個人にかかる所得税を支払ったときは、『引出金』で処理するか、または、『資本金』（純資産）を減額します。本問では、指定された勘定科目に『資本金』がある（『引出金』が無い）ため、『資本金』（純資産）を減額します。

#### 2. 仮受金

内容が不明である入金があったときは、『仮受金』（負債）で処理し、貸方に記入します。

#### 3. 有価証券（株式）の売却

有価証券を売却したときは、売却した分だけ有価証券が減少するため、『有価証券』（資産）を貸方に記入します。また、売却した有価証券の帳簿価額よりも売却価額の方が高いときには、得をしたことになるため、両者の差額を『有価証券売却益』（収益）として処理し、貸方に記入します。なお、商品以外のものを売却した際、代金を後で受け取ることとしたときは、後で代金を受け取る権利が発生します。この権利は『未収金』（資産）で処理し、借方に記入します。

※1  $¥650 \times 20 \text{ 株} = ¥13,000$

※2  $¥600 \times 20 \text{ 株} = ¥12,000$

#### 4. 固定資産（備品）の売却

売却日が期首であるため、前期末までに計上されている減価償却累計額と備品の取得原価を減額します。取得日が平成25年4月1日、前期末が平成27年3月31日なので、減価償却累計額は2年分の減価償却費の金額となります。また、受け取った現金額を加味し、貸借差額で売却損益を計上します。

$$\text{※3} \quad \text{¥}600,000 \div 5 \text{年} \times 2 \text{年} = \text{¥}240,000$$

#### 5. 商品の仕入、手形の裏書譲渡

商品を仕入れたときは、『仕入』（費用）で処理し、借方に記入します。また、他店から受け取っていた手形（受取手形として処理済み）を裏書譲渡したときは、受取手形が手許から無くなるため、『受取手形』（資産）を貸方に記入します。さらに、小切手を振り出すことにより当座預金が減少するため、『当座預金』（資産）を貸方に記入します。

### 第2問（10点）補助簿の相関関係

取引 補助簿	1	2	3	4	5
現金出納帳				○	○
当座預金出納帳	○		○		
受取手形記入帳		○	○		
支払手形記入帳	○				
仕入帳	○				
売上帳		○			
商品有高帳	○	○			
売掛金元帳(得意先元帳)		○			○
買掛金元帳(仕入先元帳)				○	

各問○がすべて合っていて2点。合計10点。

#### 解説

各取引の仕訳を行い、仕訳の勘定科目から補助簿を選択します。

各取引の仕訳は次のとおりです。

1.	(借) 仕入	50,000	(貸) 当座預金	20,000
			支払手形	30,000
2.	(借) 受取手形	50,000	(貸) 売上	80,000
	売掛金	30,000		
3.	(借) 当座預金	100,000	(貸) 受取手形	100,000
4.	(借) 買掛金	30,000	(貸) 現金	30,000
5.	(借) 現金	80,000	(貸) 売掛金	50,000
			前受金	30,000

売上・仕入については、商品の移動をとまなう取引であるため、商品有高帳にも記帳が必要となる点に注意してください。

### 第3問 (30点) 残高試算表の作成

#### 残高試算表

平成27年5月31日

借方	勘定科目	貸方
273,000	現金	
245,000	当座預金	
34,000	受取手形	
204,500	売掛金	
55,000	繰越商品	
900,000	備品	
	支払手形	60,000
	買掛金	145,000
	(未払金)	200,000
	借入金	150,000
	貸倒引当金	5,000
	備品減価償却累計額	180,000
	資本金	800,000
	売上	1,194,500
713,000	仕入	
110,000	支払家賃	
200,000	給料	
2,734,500		2,734,500

1つにつき3点。合計30点。

#### 解説

本問を解く際の基本的な手順は以下のとおりです。

- ①取引の仕訳を行う
- ②仕訳の結果をT勘定にまとめる
- ③試算表に記入する

以上が基本的な手順ですが、慣れてきたら②をとばす方法をとってもOKです。

#### ①取引の仕訳を行う

まず、取引の仕訳を行います。

##### 1. 商品仕入高

(1) (借) 仕入	35,000	(貸) 当座預金	35,000
(2) (借) 仕入	66,000	(貸) 買掛金	66,000
(3) (借) 仕入	24,000	(貸) 支払手形	24,000
(4) (借) 買掛金	1,000	(貸) 仕入	1,000

2. 商品売上高

(1) (借) 現	金	77,000	(貸) 売	上	77,000		
(2) (借) 売	掛	金	152,000	(貸) 売	上	152,000	
(3) (借) 受	取	手	形	35,000	(貸) 売	上	35,000
(4) (借) 売	上	1,500	(貸) 売	掛	金	1,500	

3. 掛代金の決済と貸倒れ

(1) (借) 現	金	113,000	(貸) 売	掛	金	113,000			
(2) (借) 貸	倒	引	当	金	1,000	(貸) 売	掛	金	1,000
(3) (借) 買	掛	金	20,000	(貸) 受	取	手	形	20,000	

4. 手形の決済

(1) (借) 当	座	預	金	33,000	(貸) 受	取	手	形	33,000
(2) (借) 支	払	手	形	15,000	(貸) 当	座	預	金	15,000

5. その他の取引

(1) (借) 備	品	200,000	(貸) 未	払	金	200,000			
(2) (借) 給	料	50,000	(貸) 当	座	預	金	50,000		
(3) (借) 支	払	家	賃	22,000	(貸) 当	座	預	金	22,000

②仕訳の結果をT勘定にまとめる

①の仕訳の結果をT勘定に転記します。T勘定にはあらかじめ平成27年4月30日の残高試算表(問題の資料(A))の金額を記入しておきましょう。なお、①の仕訳に出てこない、もしくはほとんど出てこない勘定については、時間の節約のためT勘定を作成する必要はありません。

現		金		当座預金			
4/30	83,000			4/30	334,000	1 (1)	35,000
2 (1)	77,000			4 (1)	33,000	4 (2)	15,000
3 (1)	113,000					5 (2)	50,000
						5 (3)	22,000

  

受取手形				売掛金			
4/30	52,000	3 (3)	20,000	4/30	168,000	2 (4)	1,500
2 (3)	35,000	4 (1)	33,000	2 (2)	152,000	3 (1)	113,000
						3 (2)	1,000

  

支払手形				買掛金			
4 (2)	15,000	4/30	51,000	1 (5)	1,000	4/30	100,000
		1 (3)	24,000	3 (3)	20,000	1 (2)	66,000

売		上		仕		入	
2 (4)	1,500	4/30	932,000	4/30	589,000	1 (5)	1,000
		2 (1)	77,000	1 (1)	35,000		
		2 (2)	152,000	1 (2)	66,000		
		2 (3)	35,000	1 (3)	24,000		

### ③試算表に記入する

②で作成したT勘定の借方・貸方の合計を比べ、金額の大きい方の残高欄にその差額を記入します。なお、②でT勘定を作成しなかった勘定については、平成27年4月30日の残高試算表の金額と①の仕訳の金額を集計し、残高試算表に記入します。

## 第4問 (10点) 伝票会計

1.

入金伝票	
(建)	物 ( 500,000 )

出金伝票	
( )	( )

振替伝票			
借方科目	金額	貸方科目	金額
減価償却累計額	2,160,000	建	物 2,500,000
固定資産売却損	340,000		

2.

入金伝票	
( )	( )

出金伝票	
(仕)	入 ( 200,000 )

振替伝票			
借方科目	金額	貸方科目	金額
仕	入 300,000	前	払 金 100,000
		買	掛 金 200,000

1つにつき2点。合計10点。

### 解説

1. 仕訳は次のようになります。

(借) 減価償却累計額 2,160,000 (貸) 建 物 3,000,000  
 現 金 500,000  
 固定資産売却損 340,000

①入金伝票の記入

入金伝票には実際の現金収入額のみを記入するため、入金伝票の記入は次のようになります。

(借) 現 金 500,000 (貸) 建 物 500,000

②振替伝票の記入

(借) 減価償却累計額 2,160,000 (貸) 建 物 2,500,000  
 固定資産売却損 340,000

2. 仕訳は次のようになります。

(借) 仕	入	500,000	(貸) 現	金	200,000	
			前	払	金	100,000
			買	掛	金	200,000

①出金伝票の記入

出金伝票には実際の現金支出額のみを記入するため、出金伝票の記入は次のようになります。

(借) 仕	入	200,000	(貸) 現	金	200,000
-------	---	---------	-------	---	---------

②振替伝票の記入

(借) 仕	入	300,000	(貸) 前	払	金	100,000
			買	掛	金	200,000

## 第5問 (30点) 精算表

### 精 算 表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	58,000		5,000				63,000	
現金過不足	5,000			5,000				
当座預金	389,000						389,000	
受取手形	254,000						254,000	
売掛金	346,000			50,000			296,000	
繰越商品	58,000		63,000	58,000			63,000	
消耗品	42,000			38,000			4,000	
仮払金	30,000			30,000				
建物	1,200,000						1,200,000	
備品	600,000						600,000	
支払手形		224,000						224,000
買掛金		258,000						258,000
借入金		600,000						600,000
仮受金		50,000	50,000					
貸倒引当金		10,000		6,500				16,500
建物減価償却累計額		360,000		36,000				396,000
備品減価償却累計額		270,000		90,000				360,000
資本金		1,000,000						1,000,000
売上		2,630,000				2,630,000		
受取配当金		1,000				1,000		
仕入	1,781,000		58,000	63,000	1,776,000			
給料	426,000				426,000			
旅費交通費	70,000		25,000		95,000			
広告宣伝費	12,000		3,000		15,000			
支払保険料	120,000			50,000	70,000			
支払利息	12,000		5,000		17,000			
	5,403,000	5,403,000						
雑 (損)			2,000		2,000			
貸倒引当金繰入			6,500		6,500			
(消耗品費)			38,000		38,000			
減価償却費			126,000		126,000			
(未払)利息				5,000				5,000
(前払)保険料			50,000				50,000	
当期純(利益)					59,500			59,500
			431,500	431,500	2,631,000	2,631,000	2,919,000	2,919,000

1つにつき3点。合計30点。

[決算日に判明した事項]および[決算整理事項]から決算整理仕訳を行い、その結果を精算表の修正記入欄に記入したあと、損益計算書または貸借対照表に記入します。

### 1. 現金過不足の処理

現金過不足の原因が判明したら、『現金過不足』からその原因を示す適切な勘定科目（本問は『広告宣伝費』）に振り替えます。また、決算日になっても依然として原因不明な分については、『雑損』（費用）または『雑益』（収益）で処理します。

(借) 広告宣伝費	3,000	(貸) 現金過不足	5,000
雑    損	2,000		

### 2. 仮払金の処理

仮払金は、金額が確定した時点で適切な勘定科目（本問は『旅費交通費』）に振り替えます。

(借) 旅費交通費	25,000	(貸) 仮払金	30,000
現    金	5,000		

### 3. 仮受金の処理

仮受金は、内容が判明した時点で適切な勘定科目（本問は『売掛金』）に振り替えます。

(借) 仮受金	50,000	(貸) 売掛金	50,000
---------	--------	---------	--------

### 4. 売上原価の算定

期首商品棚卸高 ¥58,000（試算表欄の繰越商品の金額）を『繰越商品』勘定から『仕入』勘定へ、期末商品棚卸高 ¥63,000 を『仕入』勘定から『繰越商品』勘定へ振り替えます。

(借) 仕入	58,000	(貸) 繰越商品	58,000
繰越商品	63,000	仕入	63,000

### 5. 貸倒引当金の設定

受取手形と売掛金の期末残高に対して、貸倒引当金を設定します。

(借) 貸倒引当金繰入	※ 6,500	(貸) 貸倒引当金	6,500
-------------	---------	-----------	-------

※ 貸倒引当金設定額：( ¥254,000 + ¥346,000 - ¥50,000 ) × 3% = ¥16,500  
上記3の処理を反映

決算整理前の貸倒引当金残高（試算表の金額）： ¥10,000

貸倒引当金繰入額： ¥16,500 - ¥10,000 = ¥6,500

### 6. 固定資産の減価償却

建物と備品について定額法により減価償却を行います。

・建物

(借) 減価償却費	※36,000	(貸) 建物減価償却累計額	36,000
-----------	---------	---------------	--------

※ ¥1,200,000 × 0.9 ÷ 30年 = ¥36,000

・備品

(借) 減価償却費	※90,000	(貸) 備品減価償却累計額	90,000
-----------	---------	---------------	--------

※ ¥600,000 × 0.9 ÷ 6年 = ¥90,000

### 7. 消耗品の処理

試算表欄に「消耗品 ¥42,000」とあるため、購入時に『消耗品』（資産）で処理していることがわかります。したがって、当期使用分を『消耗品費』（費用）に振り替えます。

(借) 消耗品費	※38,000	(貸) 消耗品	38,000
----------	---------	---------	--------

※ ¥42,000 - ¥4,000 = ¥38,000

## 8. 保険料の繰延べ

本年6月1日に向こう1年分を支払っているため、次期分（平成28年1月1日から平成28年5月31日までの5ヶ月分）を『支払保険料』（費用）から減額するとともに、同額を『前払保険料』（資産）で処理します。

(借) 前払保険料 ※50,000 (貸) 支払保険料 50,000

$$\text{※ } \text{¥}120,000 \times \frac{5\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}50,000$$

## 9. 支払利息の見越し

借入金の利息の支払条件が後払いであるため、借入日（本年9月1日）から決算日（本年12月31日）までの4ヶ月分を『支払利息』（費用）として計上し、同額を『未払利息』（負債）で処理します。

(借) 支払利息 ※5,000 (貸) 未払利息 5,000

$$\text{※ } \text{¥}300,000 \times 5\% \times \frac{4\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}5,000$$

# 模擬試験 ～解答用紙～

## 第1問 (20点)

	仕 訳			
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1				
2				
3				
4				
5				

## 第2問 (10点)

取引	1	2	3	4	5
補助簿					
現金出納帳					
当座預金出納帳					
受取手形記入帳					
支払手形記入帳					
仕 入 帳					
売 上 帳					
商品有高帳					
売掛金元帳(得意先元帳)					
買掛金元帳(仕入先元帳)					

第3問 (30点)

残高試算表

平成27年5月31日

借方	勘定科目	貸方
	現金	
	当座預金	
	受取手形	
	売掛金	
	繰越商品	
	備品	
	支払手形	
	買掛金	
	( )	
	借入金	
	貸倒引当金	
	備品減価却累計額	
	資本金	
	売上	
	仕入	
	支払家賃	
	給料	

第4問 (10点)

1.

入金伝票
( ) ( )

出金伝票
( ) ( )

振替伝票			
借方科目	金額	貸方科目	金額

2.

入金伝票
( ) ( )

出金伝票
( ) ( )

振替伝票			
借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	300,000		

